



2021年9月15日 発行  
公益財団法人 山梨YMCA  
〒400-0032 甲府市中央3-10-7  
Tel.055-235-8543 fax055-235-8553  
www.yamanashiyymca.org  
発行人 / 露木淳司  
編集人 / 中田純子 風間奈月



## これ皆一つとならんためなりー山梨YMCA創立75周年記念日礼拝感話ー

山梨YMCA常議員 岩間 孝吉



そんなことができるのだろうか

高校2年生(1957年)の時に、この言葉を聞いた時、そんなことができるのだろうか、あり得るのだろうか、という疑問が湧いてきたのを覚えている。

この言葉は、初代の山小屋風作りの山梨YMCA会館ホール正面に掲げてあったYMCA正章マークの言葉である。前山梨YMCA理事長・大澤英二さんや先輩の方々が、SPIRIT・MIND・BODYの三角マークの意味や中央にある聖書JOHN19:21(ヨハ

ネによる福音書第17章21節)の意味を、繰り返し教えてくれたのを覚えている。

「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。」少し長い21節前半の言葉である。この中の更に後半部分を、高校生の私は「これ皆一つとならんためなり」(文語訳聖書)と合言葉のように聞いたわけである。That they all may be one. という英語になっている。十字架への道行きの途上にあるイエスの祈りであるが、残される弟子たちのために祈っておられることが分かる。

弟子たちのため、後に続く私たちのための祈り

同じ個所を岩波文庫『福音書』(塚本虎二訳)で読んでみると、「しかしすでに信じているこの人たち(弟子たち)のためだけでなく、これからさきその言葉によって、わたしを信じる人たちのためにもお願いします。」(20節)となっている。キリストの弟子たちによって全世界に伝道され広がって行く、来るべき教会に向けた祈りであり、私たちの罪のために身代わりになって十字架にかかれたイエス・キリストに対する信仰の一致によってこそ、一つとなることができることが示される。

神の生きた言葉を人々の“益”とする具体的な働きに繋げる

その時代の人間社会の困難な現実から目を背けて、独善主義に陥ることに危機感を感じた青年たちがいた。押しつぶされそうな現実社会の中で、もう一度共に聖書に学び祈りの時をもったグループが、青年会YMCAの始まりだと聞く。人々の心と具体的な社会生活の場に必要とされるものを届ける(実現する)ことで、人々の益となるような働きを追求し、実行し続けていく使命があると思う。

「これ皆一つとならんためなり」は、私たちのための主イエス・キリストの祈りであり、私たちYMCAの使命が込められた合言葉である。



# 夏休みプログラム終了しました！

## お仕事体験・お祭りウィーク 平賀 佳雅



夏休みの合同プログラム（放課後児童クラブ、プライムタイム、キッズパラダイス、きらきら教室）は第1、2週目はお仕事体験ウィークとして、銀行員、介護士、整備士、陶芸家、事務員、画家、音楽家のお話を聞いたり体験しました。見学や、実際に働いている人とお話しや体験をする事で、将来の夢が膨らんだようです。

もう一つの週は『お祭りウィーク』日本の祭りを調べたり、花火師さんによるZOOMによるワークショップも行い、線香花火も作り、花火についても学びました。コロナ渦であり、グループに分かれての活動にもなりましたが、夏祭りでは子ども達が考え実行した姿を見る事ができました。子どもたちの成長を見る事が出来た夏休みとなりました。



## Peace Program

福田 奈里子



今年2月にYMCA主催で開催した「山梨ユースリーダーシップフォーラム」の実行委員会が、現在My C. というグループ名でさまざまな活動を行

っています。今年の夏は、核兵器禁止条約の日本批准を求める山梨県民集会への参加、甲府YWCA主催のピースフェスタにてYMCA学童の子どもたちに向けたワークショップの実施、まちへ出かけて平和のメッセージを書/描いてもらうアートな署名活動「平和アートin甲府」、YMCAの近所の高齢者から伺った甲府空襲体験の聞き書きなどなど、平和をテーマにした様々な活動を行いました。戦争を体験した世代の方々と豊かな出会いと学びの中で受け取った平和の想いを、ユース自身が自分のことばで子どもたちに伝えていく、そんな世代間の平和のバトンが渡しあえるYMCAを目指したいと思います。

## 南西教室・りんごの木合同プログラム

風間 奈月

南西教室とりんごの木の合同プログラムでは、腹話術のパペット鑑賞をしました。子どもたちの中では、腹話術に初めて触れる子どもたちもいて「腹話術ってなんだろう？」「どこから声がするんだろう？」といった様々な疑問を抱えながらの鑑賞でした。子どもたちの新鮮な表情をいっぱい見る事ができました。最後には自分の言葉で腹話術の説明をすることができている子どもを見て成長を感じまし

た。事業所が違って、離れていても、同じプログラムを共に過ごすことによって「つながる」を実感できた時でした。



## 夏の記憶、次のステップ 露木 魁人

今年の夏のわいわい地球塾・キャンプは感染拡大（第5波）と共にスタートしました。昨年は確実な感染対策の確立に至らず7つのプログラムしか実行に移せませんでした。この我慢の1年の中で得た経験や看護師監修もとの宿泊を含めたガイドライン作成に至り、今年は19のプログラムを開催へと導くことができました。緊急事態宣言の延長や三密を避けるための対策等により直前の変更や中止を余儀なくされたプログラムもありましたが、大きなけがやその後の体調不良等の連絡もなくすべてのプログラムが終了しました。ひとえに皆様のご協力のおかげです。秋以降は秋の実りを堪能すべく、毎月ベジブルズ（ベジタブル、フルーツを味わうメンバーズ）を行います。アウトドアクラブ、フクロウ、スキー、それぞれの野外で、紅葉、新雪と寒くなるにつれて見ることのできる幻想的な空間で、また皆様をお待ちしております。



### 総主事コラム 空の鳥、野の花

#### ハイY「ミズガキの会」 に参加して

1950～60年代を中心に、ハイスクールYMCA（通称ハイY）というものが存在していました。これは全国的な活動でしたが、特に山梨はハイY王国と呼ばれるほどでした。代表的な活動に、瑞牆山の麓の「天使園」でのワークキャンプがあります。学校毎の垣根を越えて、夏休みに長期にわたって寝食を共にし、友情を深め合い、かけがえのない青春の時間を過ごしたようです。高校生という多感な年代だったからこそ、その共同生活の記憶は強烈な印象として生涯続くものになったのでしょう。

ハイYはその後、受験戦争の時代を迎え、衰退していきます。当時、参加したメンバーは、今でもワイズメンや賛助会などを通じてYMCAの支援者になってくれています。そこででの出会いから結婚された方、子どもをメンバーにしてくれた人もいます。そしてOBOGの仲間と結成されたミズガキの会には、平均年齢70才を超えた有志が、今でも毎年8月に瑞牆山のふもとに集結しています。

私は数年前から、送迎のバスの運転などで関わらせてもらうようになりました。県内各地からの参加者に加え、東京や横浜に移住された方々も、何十年とお付



## キャンプパラダイス 福田 奈里子

7月31日（土）～8月1日（日）富士山YMCAグローバルエコビレッジにて、国際理解をテーマにしたキャンプ「富士山キャンプパラダイス」を実施しました。YMCAのインターナショナル学童プログラム講師のジャメル、ケニア出身のオモンディを交えて、ケニアの文化や言葉、歌やダンスを英語で楽しむ、国際色豊かなキャンプになりました。参加者の中にはフランスにつながるのお子さんもいて、まさに「多様性」を象徴する仲間づくりができました。南アフリカの人権活動家、デズモンド・ツツ大司教の絵本「かみさまのゆめ」を題材にしたワークショップ、違いを超えて仲間になるチームビルディング、エコロジーゲームなど、地球規模の問題を自分ごととして体験し、学び、感じ取るグローバルキャンプ。子どもたちが自然の中で、ありのままを大切にされる環境であるからこそ、他者との違いを尊重し共に生きる「地球市民」の感覚が育つのだということ子どもたちの笑顔が物語っています。



き合いを続けているのです。クラス会や部活やサークルの同窓会のようなものは、毎年集まるところは少数派です。何よりも学校を超えてつながることはまれです。懇親の時には、それは懐かしそうに楽しかったエピソードを再確認し、共有しあっています。そんな光景を見る度になんとも羨ましい気持ちにさせられます。年を重ねるごとに参加者は徐々に減ってきているのでしょうか。顔ぶれも固定されてきているのかもしれません。ただ、どんなに少数派になっても、その会が存続さえしていれば、そこにいない人もつながられるのです。

今のYMCAはFOR ALLを謳ってはいますが、子どもとお年寄り以外のいわゆるヤングメン、ティーンエイジャーがあまりいないのが現状です。当然ミズガキの会のような生涯つきあいを続けていける会は生まれません。YMCAに今求められているのは、ハイYのように生涯つきあえる友人をゲットできる活動だと思えます。現代版ハイYのような活動。それは何なのか、今こそ真剣に考えなければならないと思っています。



## オリーブの木 中澤 かおる

高齢者デイサービスセンターオリーブの木では、介護が必要になってもご本人もご家族も、その人らしく生きがいを持って生活できるようお手伝いさせていただいています。YMCA内の施設であるため、夏休みは朝から子どもたちの元気な声で、ご利用者様もたくさんの刺激をもらっています。子どもたちの夏祭りに招待していただき、射的やゴルフゲーム、金魚釣りなどを楽しみました。その日のおやつは、たこ焼きをいただきました。ラムネとお菓子は家族のお土産に！また、熱中症予防のための工夫など、一緒に学ぶ機会を持ちご家族にもお伝えし、元気に猛暑を乗り切りました。



## 鹿児島とつながる 中田 純子

出口の見えないコロナ禍の今年度、春に行われた鹿児島YMCAのチアリーディングリモートレッスンが夏のアフタースクールプログラムとして形を変え、鹿児島Y・山梨Yの子どもたちが交流する事ができました。『YMCA』の曲に合わせて身体を動かす子ども達。楽しい声・素敵な笑顔が見られ、その姿にスタッフ皆が心豊かに膨らんだ瞬間となりました。次は、バザーやチャリティーランで発表するという目標へとステップアップしたいと思います。

次回冬号をご期待ください。



## Connect with our future ~SDGsへつながる一歩~

12 つくる責任  
つかう責任



夏休みプログラムでは、普段であればごみになってしまう牛乳パックや新聞紙などの廃材を再利用して工作を行いました。ごみ箱に捨てられてしまう素材たちをかき集めて自分なりに工夫したり試したりしながら遊び道具を作りました。この廃材遊びを通して、創り出す楽しさを学ぶと同時に資源の有効活用について考える機会となりました。



## コロナワクチン職域接種実施



山梨県の協力を得て、8月29日(日)から3日間、山梨大学を会場とし、山梨YMCA、県流通協議会関係者、その他団体と共同で1回目の職域接種を実施しました。YMCA関係者総勢401人の接種を行うことができました。次回4週間後の9/26・27・28 同じ場所、同じ時間の実施となります。

## 表紙の写真から



さわやかな秋晴れでお散歩するのに、もってこいの気候となりました。子どもたちと共に秋の空気を感じ、山梨ならではの富士山を目の前にして自然と共生していることを実感する日々です。日々の活動を通し、時間を共有することで子どもたちと互いに「こころ」を通わせることを大切にしています。(風間 奈月)